

■青木木米 陶工・画家。文人陶工として最高峰。小品ながら、気品の高い特色ある作品。晩年の自由奔放な南画も魅力的。

あおきもくべい

意次側用人・1767＝ 代々京都祇園の引手茶屋の木屋佐兵衛の長男に生まれる。本名は青木八十八。

田沼意次老中1772＝ 5歳：

雨月物語刊・1776＝ 9歳：

少年時に、高芙蓉の許に遊んで、古器物の鑑賞眼が磨かれと言われ、

蝦夷初調査・1785＝18歳：

田沼意次失脚1786＝19歳：

はじめ鋳工を志し、初代竜文堂に鋳金の技法を習ったが、

異学の禁・1790＝23歳：この頃、**陶業を志し、粟田口東町に開窯した。**

一説に、奥田頼川に師事したと伝わるが、時期は不明。その後、「陶説」と出会うまでに窯の爆発により耳を聳す。時期は不明ながら、一時破産して伊勢古市の青楼に寄寓し、銅器の鋳造で糊口を凌いでいる。

松平定信引退1793＝26歳：

ワザガ正月・1794＝27歳：

写楽・・・1795＝28歳：

プロト来航・1796＝29歳：

父佐兵衛、姉浅の子に浅と、次々死去。**木屋を継いで青木佐兵衛となり、本名をもじって木米と号した。**高芙蓉十三回忌に「高芙蓉追善印譜」に自刻の印を寄せ、青來号、木米名の初出。皆川洪園主催の〔東山新書画展観〕に「淡彩山水」を出品。中村芳中の紹介で、**\*大坂の木村兼葭堂を初めて訪ね、清の馬俊良編「龍威秘書」中の朱笠亭(朱瑛)「陶説」六巻に出会い、**

東蝦夷直轄始1799＝32歳：

伊能測量始・1800＝33歳：

大坂の兼葭堂を訪ねる(二回目の訪問)。**この頃には、古代の漢器の模造に長けた陶工と評され、紀州藩主徳川治宝の招聴により紀州へ赴くも、良士が無いために帰る。**

本居宣長没・1801＝34歳：

大坂の**兼葭堂を訪ね、寄寓していることから、この時、「陶説」を書写したと思われる。**後に自らも「龍威秘書」**全函を購入。**

膝栗毛始・・・1802＝35歳：

アリア船来航始1803＝36歳：

イザノ来航・1804＝37歳：

青洲麻酔手術1805＝38歳：

イザノ報復・1806＝39歳：

ウツ船狼藉・1807＝40歳：

間宮海峡発見1808＝41歳：

・・・1810＝43歳：

高田屋拿捕・1812＝45歳：

柳下亭嵐翠著「煎茶早指南」で、唐物写しの名手と評される。**兼葭堂が死去、密度高かった交流終わる。**

母いわが死去。**官許を得て「陶説」の翻刻に着手、**

姉ともが死去。**\*粟田御所(青蓮院宮)の御用窯を命ぜられるほどになり、**

前年の金沢の町年寄からの依頼で、加賀窯業復興のため金沢に赴き、試焼を終えて帰京、

再び金沢へ赴き、春日山に築窯して、

帰京。**これまでに鑑賞・鑑定したやきものを写した図を冊子「古器観」にまとめ序文を記す。**

妻貞との間に長女来が誕生(一説に2年前)。

書画や詩文にも豊かな才能を持ち、頼山陽ら一流文人と交友。

水野忠成老中1818＝51歳：骨董商にて青花桔梗の香合を実見し写し取る。

群書類従完結1819＝52歳：頼山陽から雲華所蔵の硯の繕いを依頼される。

・・・1820＝53歳：三河奥殿藩主松平乗義へ、**自叙伝「上奥殿侯書」を添えて、自ら翻刻した「陶説」の写本を献上。**

蝦夷地直轄終1821＝54歳：

英船浦賀来航1822＝55歳：

粟田御所に参賀し、染付瓢箪根付を献上。「龍馬負図硯端溪石」「蓬萊硯挑河緑石」を入手。「姉妹硯」と命名した二硯について、山陽へ一文を草するよう依頼し、自らも一文を草する。頼山陽の新宅披露の集いに招かれる。「平安人物志」奇工部に「毛久米 称八十八 三条白川橋 木舎左平」と掲載される。**\*長崎に遊んで江稼園に会い、その筆法を学んで南画も極め、**

シボト来日・1823＝56歳：

「騰龍図」。三条の柏葉亭にて、山陽、雲華、中島綜隠らを招いて、「姉妹硯」を含む新収蔵の文房具を披露。**初めて出能村竹田の訪問を受け、以後、相互に訪問したり、山陽らとともに、親交。**

シボト鳴滝塾1824＝57歳：

妻貞が死去。この年、山陽との交流盛んで、山陽の母梅麗の広島帰郷に際し、「祇園香煎」を贈る。**「兎道朝暉図」「山水図」、**

異国船打払令1825＝58歳：

山陽、雲華、浦上春琴らと共に上賀茂に遊び、雲華へ蘭を贈る。

・・・1826＝59歳：

後妻まさとの間に長男周吉が誕生。

日本外史・・・1827＝60歳：

華頂峯下の新門前に住み、次女いねが誕生。**木米翻刻の「陶説」に、山陽が序文「刻陶説序」を寄せる。**

シボト追放・1829＝62歳：

娘誕生も死去、続いて、後妻まさも死去。若い頃、窯の爆発で耳を聳し、聾米とも号したらしく、

富籤流行・・・1830＝63歳：

「平安人物志」良工の部に、「木佐平 号聾米 新門前綱手東 木舎左平」と掲載され、

鼠小僧磔・・・1832＝65歳：

殿村桂陰へ書状を出し、豊臣秀吉の遺物展覧会を見たことなどを報じ、転居してまもなく、

天保大飢饉始1833＝66歳：

竹田より、本来は山陽のために描かれた「松巒古寺図」を転贈される。殿村桂陰へ書状を出し、昨年秋より構想し二月開催予定の北野煎茶百煮会が、参加者への配り物の煎茶具に不都合が生じて延期となり、六百余りの煎茶碗を再度制作したため、疲労困憊したなどと報じ、**没した。**